

友松会創立 130 周年記念
YNU プラウド卒業生の紹介



横浜国立大学附属図書館「YNU プラウド卒業生文庫」

平成 30 年 6 月 23 日

横浜国立大学 YNU プラウド卒業生について

横浜国立大学では、社会的貢献度が高く、またその功績が在校生の鑑となる本学の卒業生を、平成 25 年度から「横浜国立大学 YNU プラウド卒業生」として表彰しています。

表彰される卒業生は、同窓会組織である友松会（教育学系）、富丘会（社会科学系）、名教自然会（理工学系）等からの推薦を受け、学内に設置した YNU プラウド卒業生審査委員会で審査した後決定をしています。

YNU プラウド卒業生一覧

(敬称略)

平成 25 年度

酒井 恒 (友松会)

1924 年神奈川県師範学校卒業、元学芸学部長、
日本甲殻類学会創設

平成 26 年度

濱田 隆士 (友松会)

1955 年学芸学部卒業、神奈川県立生命の星・地球
博物館館長

平成 27 年度

小川 信夫 (友松会)

1948 年神奈川県師範学校卒業、川崎市総合教育セン
ター初代所長

平成 28 年度

小島 寅雄 (友松会)

1934 年神奈川県師範学校卒業、「ね・さ・よ」運動
の創始者、第 14 代鎌倉市長、全国良寛会会長

※ 友松会関係者のみ掲載

酒井 恒 氏 経 歴



カニ研究の第一人者
—相模湾を愛したカニ博士—

- 1903 年 5 月 19 日 神奈川県足柄上郡大井町金手に出生
- 1924 年 神奈川県立師範学校（横浜国立大学の前身校の一つ）卒業
- 1929 年 東京高等師範学校理科三部卒業
- 1932 年 東京文理科大学動物学科卒業
東京文理科大学附属下田臨海実験所助手
- 1938 年 東京文理科大学附属下田臨海実験所退官
岐阜県女子師範学校教諭
- 1939 年 理学博士（京都帝国大学）
- 1943 年 神奈川県立師範学校（横浜国立大学の前身校の一つ）教授
- 1949 年 横浜国立大学学芸学部教授
- 1952 年 第 1 回神奈川県文化賞受賞
- 1954 年～1955 年 横浜国立大学学芸部長
- 1954 年～1969 年 横浜国立大学学芸部理科教育岩実験所（真鶴理科教育実験所の前身）所長
- 1960 年～1961 年 横浜国立大学学芸部長
- 1961 年 日本甲殻類学会会長（初代）
- 1967 年 神奈川県立博物館協議会委員
- 1969 年 横浜国立大学定年により退官
- 1970 年～1979 年 東京家政学院大学教授
- 1973 年 紺綬褒章受章
- 1974 年 勲三等旭日中綬章受章
- 1978 年 神奈川県自然保護協会会長
- 1986 年 2 月 22 日 逝去（82 歳）
従三位叙位
- 2007 年 大井町名誉町民

酒井 恒 氏 業 績

主な著作

- ・カニとエビの生活（課外理科文庫刊行会、1931）＊
- ・日本蟹類図説（Crabs of Japan）（三省堂、1936）
- ・Studies on the crabs of Japan（日本産蟹類の研究）

博士論文 学位：理学博士

授与大学：京都帝国大学 授与年月日：1939 年 12 月 1 日

昭和 7～13 年にかけて静岡県下田周辺と相模湾で採集された標本に基づいて行った研究で、次の 4 部から成る。

Studies on the crabs of Japan. I. Dracinaea. Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daigaku. Sec. B, 2 (Suppl. 1): 1-66, 9 pls., 1936

Studies on the crabs of Japan. II. Oxystomata. Sci. Rep. Tokyo Bunrika Daigaku. Sec. B, 3 (Suppl. 2): 67-192, 2 tabs., 45 figs. & 10 pls., 1937

Studies on the crabs of Japan. III. Brachygnatha, Oxyrhyncha. Yokendo, 193-364, 55 figs. & 22 pls., 1938

Studies on the crabs of Japan. IV. Brachygnatha, Brachyrhyncha. Yokendo, 365-741, 129 figs. & 70 pls., 1939

- ・相模湾産蟹類 / 生物学御研究所編（丸善、1965 年）
- ・日本産蟹類（講談社、1976）

その他、多数の著作物あり。

（＊は、国立国会図書館で収集・保存しているデジタル資料を検索・閲覧できるサービス「国立国会図書館デジタルコレクション（<http://dl.ndl.go.jp/>）により、インターネット経由で閲覧可能。）

昭和天皇の御学友

昭和 27 年（1952 年）11 月 8 日、生物学御研究所で「相模湾産カニ類の特殊性」について約 1 時間にわたって行った御進講が御縁となり、その後相模湾の海洋生物研究の相談役また御学友として昭和天皇の御採集・御研究の傍らに酒井博士の姿があった。

博士逝去のおり、昭和天皇は御製の中で、亡くなった博士への想いを「船にのりて相模の海にともいでし 君去りゆきぬゆふべはさびし」と詠っている。

日本甲殻類学会の創設

昭和 36 年（1961 年）4 月 7 日に東京麻布の小田原甲殻類博物館にて、酒井博士を初代会長、Isabella Gordon 博士を名誉会長として発会式が行われた。なお、第 1 回大会は横浜国立大学理科教育岩実験所で開催された。

機関誌「甲殻類の研究（Researches on Crustacea）」が発刊され、酒井博士も多くの研究成果をここに寄せた。現在「甲殻類の研究」は“Crustacean Research”という英文タイトルで、和文の機関誌“CANCER”とともにオープンアクセス誌（インターネットを通じて誰でも自由に閲覧できる学術誌）として毎年刊行されている。

酒井コレクション

分類学的研究のために収集したカニ類・タラバガニ類の膨大なコレクションを昭和 47 年（1972 年）、神奈川県立博物館に寄贈。現在は博士夫妻が仕上げた細密画とともに神奈川県立生命の星・地球博物館へ移され、「酒井コレクション」として保管されている。

これにより、博士は昭和 48（1973）年 6 月 30 日紺綬褒章（公益のため私財を寄付した功績ある者に与えられる勳章）を授章された。

参考文献：特別展図録「カニの姿：酒井コレクションから」（神奈川県立生命の星・地球博物館、1999）

濱田 隆士 氏 経歴



「開かれた博物館」を目指して
—市民に親しまれた古生物学の碩学—

- 1933年 2月3日宮崎県延岡市に生まれる
- 1955年 横浜国立大学学芸学部地学科卒業（学芸学士）
- 1960年 東京大学大学院数物系研究科地質学専門課程
博士課程修了（理学博士）
東京大学教養学部地学教室助手
- 1966年 カリフォルニア工科大学交換研究員（～1968年）
- 1969年 横浜国立大学教育学部非常勤講師
東京大学教養学部地学教室助教授
- 1980年 東京大学教養学部地学教室教授
- 1982年 東京大学理学部講師併任
- 1985年 東京大学大学院総合文化研究科担当
- 1987年 文部省学術審議会専門委員（～1992年）
- 1988年 文部省教科用図書検定調査審議会委員（～1990年）
- 1989年 国際協力事業団国内委員会委員（～1991年）
科学技術会議専門委員
- 1991年 放送大学客員教授（～1993年）
- 1992年 文化庁文化財保護審議会委員
- 1993年 東京大学定年退官、東京大学名誉教授
放送大学教養学部教授
- 1995年 神奈川県立生命の星・地球博物館館長（～2000年）
- 2000年 福井県立恐竜博物館館長（～2005年）
- 2011年 1月19日 逝去（享年77歳）

濱田 隆士 氏 業績

専門は、古生物学、地質学、地球環境変動史学であったが、博物館学や生涯教育、映像生物学、地球環境問題や科学技術社会論まで幅広い分野で活躍された。また、科学メディアへの関心も強く、NHKなどの教育番組の作成にも積極的に協力された。特に、NHK特集「地球大紀行」には諮問委員として参画し、地球科学の普及に大きく貢献した。著作物は、専門分野の学術論文や普及図書など500編以上にのぼる。

- 日本の古生代のサンゴ化石についての研究を進め、1960年に「西南日本外帯ゴトランド系の層序と分帯」というテーマで、東京大学から理学博士の学位を授与されるとともに、日本地質学会研究奨励賞を授与された。
- 1966年には、京都在任の益富寿之助博士と共著で、カラー版「原色化石図鑑」（保育社）を刊行した。この図鑑は、化石に興味関心のあった大人だけでなく子どもたちにとってもバイブルともなった。それは、後に刊行された「日本の化石」（小学館）に引き継がれていった。
- 1960年代から70年代前半にかけて、千葉県房総半島の沼サンゴ層の調査研究を進め、その成果は、地質時代から現在までの造礁性生物の分布や古生物地理学的意義を考える上での重要な貢献となった。
- 1971年には、「古生代三葉虫及びサンゴの研究」というテーマに対して、日本古生物学会学術賞が授与された。
- 1970年代からは、生きた化石とよばれるオウムガイやカブトガニなどの研究もされ、古生物を理解するうえで現在の生物を研究する意義を唱えられた。その成果は普及面にも活用され、1975年に「カラー自然ガイド 生きている化石—動物—」を刊行された。
- 古生物学や地球科学だけでなく、その周辺分野との学際的研究や、新しい道具やテクニックの活用も積極的に取り組まれた。化石へのX線CTスキャンの適用や、「コンピュータ・グラフィックス」による三次元復元は、先駆的な研究として海外にも紹介された。
- 科学研究を社会に普及させるために、科学メディアとの交流も積極的に行った。図書だけでなく、NHKなどの教育番組の制作にも協力を惜しまなかった。なかでも、NHKの特集番組であった「地球大紀行」や「生命 40億年はるかな旅」などに参画され、地球科学だけでなく科学全般を社会に普及することを努められた。
- 子どもたちへの普及活動や、成人への生涯教育などにも深い理解を示し、大学在職中から様々な普及活動に取り組まれた。また大学退官後は、神奈川県立生命の星・地球博物館や福井県立恐竜博物館の館長として、自然科学の普及に努めた。
- 生涯にわたって、古生物学、地質学、地球環境変動史学の研究に精進され、その成果を一般社会に還元すべく普及活動に積極的に取り組んだことは、研究者だけでなく生涯学習関係者、科学メディア関係者など多方面から高く評価されている。

小川 信夫 氏 経歴



1926年10月17日、神奈川県津久井郡串川村根小屋に生まれる。

学歴

- 1948年 神奈川県立師範学校本科 卒業
- 1952年 日本大学経済学部 卒業
- 1954年 東京教育大学 <派遣生として1年間留学>

職歴

- 1950年 川崎市教育研究所 勤務
- 1960年 川崎市立古川小学校 勤務
- 1965年 川崎市教育委員会・指導主事
- 1970年 川崎市立幸町小学校 教頭
- 1972年 川崎市教育委員会教職員課長
- 1975年 川崎市教育研究所・所長
- 1979年 川崎市教育委員会指導部長
- 1986年 川崎市総合教育センター・初代所長
- 1987～1996年 関東甲信越教育研究所連盟委員長（歴任）
- 1996～2005年 玉川大学学術研究所客員教授
- 2002～2012年 玉川大学生涯学習センター 非常勤講師
- 川崎市青少年問題協議会・副委員長

演劇という新しい分野から
教育の在り方を積極的に提示
— 『川崎市市民劇』の重鎮 —

文化活動歴

- 1952年～現在 日本児童青少年演劇作家として、特に劇作活動に従事。NHK道德番組の委員及び作家として活動。
- 1980年1990年 川崎市地産政策推進協議会演劇専門委員運動懇談会・台本執筆芸術文化財団演劇専門委員 歴任
- 1997年～現在 川崎市地域文化振興策として市民劇運動に参加・台本執筆。

小川 信夫 氏 業績

受賞歴

- 1953年 日本児童劇作家協会賞（日本児童劇作家協会）
- 1962年 神奈川県教育功労賞（神奈川県）
- 1990年 川崎市文化賞（川崎市）
- 2007年 斉田喬戯曲賞（社団法人・日本児童青少年演劇協会）

著書

「教育関係」

- ・親に見えない子供の世界（玉川大学出版部・刊）
- ・情報社会の子どもたち（玉川大学出版部・刊）
- ・少子家族・子供たちは今（玉川大学出版部・刊）
- ・溶ける家族と子どもたち（玉川大学出版部・刊）
- ・ママのひとこと（マック出版社・刊）
- ・教育の四季（川崎市総合教育センター・刊）
- ・子どもの心をひらく学級教育相談（黎明書房・刊）
- ・学級担任のちょっとした表現術入門（黎明書房・刊）
- ・いますぐ取り組む学級の安全管理（黎明書房・刊）
- ・学級づくりハンドブック（黎明書房・刊）
- ・学級活動12月 低・中・高（三冊）（黎明書房・刊）
- ・わくわく遊びわくわくゲーム（黎明書房・刊）

「道徳」

- ・さわやかマナー（道徳編）低・中・高（三冊）（玉川大学出版部・刊）
- ・道徳朗読劇の指導（黎明書房・刊）
- ・道徳指導50の疑問（黎明書房・刊）
- ・道徳・きみがいちばん光るとき（副読本）
小学校（光村図書）
中学校（光村図書）
「副読本著書及び編集責任者」

「国語」

- ・中学校教科書2掲載 戯曲「霧」（筑摩書房 昭和37年・刊）
戯曲「霧」（大日本図書 昭和37年・刊）
戯曲「霧」（開隆堂 昭和37年・刊）
- ・中学校教科書1掲載 戯曲「ヨハンモリスの魂」（教育出版・昭和43年・刊）

「演劇」

- ・小川信夫少年演劇作品選集（太陽出版・刊）
- ・学年別・学校劇脚本集 編著者（黎明書房・刊）

「戯曲」

- ・「多摩川に虹をかけた男」（川崎市市民劇実行委員会）
- ・「池上幸豊とその妻」（川崎市市民劇実行委員会）
- ・「風雲・枳形城・落日の舞い」（川崎市市民劇実行委員会）
- ・「大いなる家族」（川崎市市民劇実行委員会）
- ・「華やかな散歩・佐藤惣之助物語」（川崎市市民劇実行委員会）

「その他」

- ・NHK道德番組・ドラマ台本多数。

小島 寅雄 氏 経歴



「ね・さ・よ」運動の創始者
(言葉の使い方を見直し、公の場でもコミュニケーションが取れる子どもたちを育てようと、教師の意識を変え、地域の方々の協力を得て、創始した教育活動)

- 1914年(大正3年)3月29日 鎌倉郡腰越津村に生まれる
 1928年(昭和3年)4月 神奈川県師範学校(現在横浜国立大学)に入学
 1934年(昭和9年)3月 神奈川県師範学校卒業
 4月 鎌倉郡川上小学校訓導となる
 1935年(昭和10年) 自由律俳句「層雲」に投稿
 1936年(昭和11年) 種田山頭火(1882-1940 自由律俳句で著名な俳人、当時54歳)に会う。
 1939年(昭和14年) 4月 川崎市立住吉小学校に転勤
 1944年(昭和19年) 学童疎開で大山に行く。
 1945年(昭和20年) 4月 藤沢小学校に転勤
 1946年(昭和21年) 4月 鎌倉市立小坂小学校へ転勤、学校劇脚本集(明治図書刊)
 1951年(昭和26年) 4月 鎌倉市立小坂小学校教頭
 1954年(昭和29年) 4月 稲村ヶ崎小学校教頭
 1955年(昭和30年) 4月 鎌倉市教育委員会指導主事
 1956年(昭和31年) 鎌倉作文の会設立、会長就任
 1957年(昭和32年) 樋口加六(独立美術家協会)に師事
 1962年(昭和37年) 4月 鎌倉市立腰越小学校校長。翌年「ね・さ・よ」運動(言葉の使い方から考えようとする創造学習)を始める。
 1966年(昭和41年) 4月 鎌倉市立第二小学校長
 1969年(昭和44年) 4月 鎌倉市教育研究所長
 11月 鎌倉市中央図書館長
 1971年(昭和46年) 1月 鎌倉市教育委員会学校教育課長 6月 鎌倉市教育長に就任
 1981年(昭和56年) 11月 鎌倉市長に就任
 1985年(昭和60年) 10月 鎌倉市長退任
 11月 鎌倉覚園寺にて得度
 1986年(昭和61年) 鎌倉良寛会発足 勲五等双光旭日章受章
 1992年(平成4年) 全国良寛会会長
 1995年(平成7年) 全国良寛会総会(退任まで毎年総会を開く)
 1996年(平成8年) 鎌倉良寛会10周年記念総会
 1997年(平成9年) 全国良寛会総会(鎌倉建長寺において開催する)
 2002年(平成14年) 全国良寛会会長退任・名誉会長となる。
 10月26日 逝去(享年89歳)
 叙勲 正六位に叙する 内閣総理大臣 小泉純一郎

小島 寅雄 氏 業績

主な著作

- 教職、図書館長、教育長、鎌倉市長など歴任。詩、俳句、短歌、随筆、
 仏画などの創作、良寛研究と多方面に活躍。関連著書多数。
 ・詩集 「凡大開眼」1948年
 ・子どもと生きて 綴り方と教師の記録 1970年 創造社
 ・二合庵雑記帳 1972年 創造社
 ・二合庵雑記帳 鎌倉しぐれ 1975年 かまくら春秋社
 ・ひふみよいむな 良寛私語 1979年 かまくら春秋社
 ・色は匂へど 1988年 求龍堂
 ・随筆 赤とんぼ 1991年 水書房
 ・画文集 花と野仏 1993年 求龍堂
 ・良寛のこころ 1993年 求龍堂
 ・画文集 しぐれゆく 1996年 日貿出版
 ・わたしの良寛さま 二合庵春抄 1998年 中央公論
 ・教えることは教わること 1998年 求龍堂
 ・良寛幻想 詩歌集 1998年 求龍堂
 ・ふりむけば良寛 1998年 春秋社
 ・遥かなる良寛 2000年 考古堂
 ・大愚 2001年 春陽堂書店
 ・良寛と70年 歌集 2001年 考古堂書店
 ・折り折りのことば 2002年 春陽堂書店
 ・八十八の遺言状 2002年 水書房

仏画家としても活躍

- 昭和32年樋口加六氏(独立美術家協会会員)に絵画の手ほどきを受け、
 作画を始める。このことをきっかけに創作活動を始めるようになる。
 石仏を彫る・仏画を描く・陶仏を焼く等
 ・昭和49年 平山郁夫氏(1930-2009 日本画家)の勧めにより東京銀座
 セントラル美術館で展覧会開催
 ・昭和52年 東京日本橋三越にて展覧会
 ・昭和56年 師範学校の同期生による「楽々会」結成、鎌倉展
 ・昭和60年～63年 石川県、東京、横浜などで展覧会開催
 ・平成元年～14年
 横浜高島屋、金澤画廊(石川県)、渋谷奥村画廊、
 新宿栢木画廊、横浜松坂屋、鎌倉中央公民館、東京文春画
 廊、センター画廊、横浜有隣堂、松山等で展覧会開催。
 他にも名古屋、福岡、静岡でも開催。

良寛会会長として

- 教職にあるときから良寛の人となりにあこがれ、研究を続けるととも
 に、托鉢の旅も経験。鎌倉市長を退任した後、得度し、鎌倉良寛会結成、
 全国良寛会会長にも押し立てられ、退任まで毎年各地で総会を開催した。
 良寛に関する執筆多数。講演、ラジオ、テレビ、雑誌等でも活躍。
 ・平成9年 良寛詩碑落成除幕式出席のため慶賀訪中団長として中国へ
 ・平成13年 在家仏教講演